霧島市立医師会医療センター
薬剤部 DI ニュース
No. 359
2026年11月

～複数の点眼剤を使用するときのポイント～



基本ルール

・1回の点眼量は、片眼1滴ずつで十分
それ以上点眼しても眼の外にあふれたり、涙点を通って鼻涙管へ排出されたりします
滴下数が多いからといって効果は変わりません
・2種類以上の点眼剤を使用する場合、5分以上空ける
点眼間隔が短いと先に点眼した液が、後に点眼した薬液によって洗い流されてしまい、十分な効果が得られないことがあります
・容器の先がまぶたやまつ毛、目にふれないように注意
感染の原因になります
・開封後は1か月の使用を目安とする
汚染の危険性を回避するため、できるだけ早く使用することが望ましいです
・懸濁性の点眼液は、よく振る
薬剤が点眼容器に沈殿しやすいため、使用前によく振って均一にします
・コンタクトレンズ再装着の際は、十分な時間(5分以上)空ける

点眼する順番

順番	剤形	理由
①	水溶性	吸収が速いため、最初に点眼する
②	懸濁性	水に溶けにくく吸収されにくいため、水溶性点眼剤より後に点眼する
③	油性	油膜を作るため、先にさすと他剤を弾いてしまう
④	ゲル化	結膜嚢内でゲル化し薬剤滞留時間を延長させた点眼剤であり、他の点眼剤の吸収を低下させるおそれがあるため後に点眼する
⑤	眼軟膏	水をはじきやすく、徐々に吸収され効果発現時間が緩やかで滞留時間も長いため最後に点入する

点眼液の使い方



①手を洗う
②下まぶたを軽く下に引き、
1滴を確実に点眼する
③しばらく(1～5分)まぶたを閉じるか
涙嚢部を指先で軽く押さえる
あふれた薬液は拭き取る

眼軟膏の使い方



①手を洗う
②下まぶたを軽く下に引き、
チューブを少し押して
下まぶたの内側に薬をつける
③まぶたを閉じ、軟膏が溶けて
全体に広がるまでしばらく待つ
あふれた軟膏は拭き取る

主な点眼剤の種類と剤形

（◎院内採用　◆患者限定採用）

一般名	商品名	剤形
抗アレルギー薬		
エピナスチン	◆ゼペリン	水溶性
オロパタジン	◎パタノール	水溶性
◆レボカバスチン	リボスチン	懸濁性
ケトチフェン	ザジテン	水溶性
白内障・視調節薬		
◎ピレノキシン	カタリン	懸濁性
シアノコバラミン	◎サンコバ	水溶性
抗菌薬		
◎レボフロキサシン	クラビット	水溶性
ガチフロキサシン	ガチフロ	水溶性
ドライアイ・角膜保護薬		
◎ヒアルロン酸Na	ヒアレイン	水溶性
◎レバミピド	ムコスタ	懸濁性
ジクアホソル	◆ジクアス	水溶性
ホウ酸＋無機塩類	◆人口涙液マイティア	水溶性
抗炎症・ステロイド薬		
◎プラノプロフェン	ニフラン	水溶性
ブロムフェナクNa	◆ブロナック	水溶性
◎フルオロメトロン	フルメトロン	懸濁性

一般名	商品名	剤形
緑内障・高眼圧症治療薬		
◎ラタノプロスト	キサラタン	水溶性
ビマプロスト	◆ルミガン	水溶性
オミデネパグイノプロピル	◆エイベリス	水溶性
チモロール	◆チモプトールXE	ゲル化
◆カルテオロール	ミケランLA	ゲル化
ブナゾシン	◆デタントール	水溶性
◎ブリモニジン	アイファガン	水溶性
リパスチル	◆グラナテック	水溶性
◆ブリンゾラミド	エイゾプト	懸濁性
ドルゾラミド	トルソプト	水溶性
ラタノプロスト＋チモロール	◎ラタチモ配合	水溶性
ブリンゾラミド＋ブリモニジン	◆アイラミド配合	懸濁性
ブリンゾラミド＋チモロール	◆アゾルガ配合	懸濁性
ブリモニジン＋チモロール	◆アイベータ配合	水溶性
カルテオロール＋ラタノプロスト	◆ミケルナ配合	水溶性
チモロール＋トラボプロスト	◆トラチモ配合	水溶性
チモロール＋ドルゾラミド	◆コソプト配合	水溶性

参考文献
日本薬剤師会 「点眼剤の適正使用ハンドブック」
Santen「目薬(点眼液・眼軟膏)の使い方」
Santen Medical Channel 「服薬指導(点眼剤)」
福岡県薬剤師会「2種類以上の点眼薬を使用する時の順番」

薬剤部　徳田